

## 研究主題 「生徒の学習意欲を高める社会科学習の指導と評価

- 『生徒の主体的学習を支援するシラバス』と個人内評価の

効果的な活用を通して - 』

東京都教職員研修センター研究部研究課

板橋区立赤塚第一中学校 教諭 北見朱美

### 研究のねらい

社会の変化に柔軟に対応する能力や態度を育成する観点から、生徒の社会的事象に対する関心を高めるとともに、社会の変容に継続的にかかわり主体的に学習し続けようとする態度を身に付けさせることが必要であると考えた。

評価については、教育課程審議会答申(平成12年12月)では「目標に準拠した評価及び個人内評価の重視」の項目において、目標に準拠した評価を一層重視するとともに、児童・生徒のよい点や可能性、進歩の状況等を評価するために個人内評価を工夫することを挙げている。

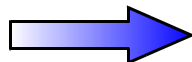
そこで、学習過程における指導と評価の工夫に取り組むことで、生徒一人一人の学びを把握し、生徒自身が成果を実感できるような指導と評価の工夫・改善を行うことが生徒の学習意欲を高めることにつながるのではないかと考え、次の2点を研究のねらいとした。

- 1 目標に準拠した評価及び生徒による自己評価を取り入れた個人内評価の工夫・改善を図ることで、生徒の学習意欲を高めることを目指す。
- 2 単元の学習目標や評価規準を生徒に把握させるための「シラバス」活用の工夫によって、学習意欲の向上を図っていく手だてを明らかにする。

### 研究の内容・方法

#### 1 基礎研究

- ・社会科の評価の考え方にシラバスを導入
- ・カリキュラム・マネジメントとシラバスの関連と必要性の明確化
- ・目標に準拠した評価を行う際のシラバス作成の視点の明確化



#### 2 調査研究

- ・社会科に対する学習意欲
- ・家庭学習の習慣の実態
- ・評価・評定に関する意識

(上記3点について都内公立中学校第2学年生徒132名を対象に質問紙による調査を実施)

#### 3 授業研究

検証授業 (地理的分野「日本の姿をとらえよう」の実施と考察)

- ・「主体的学習を支援するシラバス」を活用した指導の工夫と個人内評価の工夫を取り入れた授業を行う。
- ・教員の授業改善と生徒の自己学習力向上の2つのPDCAサイクルが関連し合って、学習意欲の向上効果が高まる(相乗効果)ことを授業を通して明らかにする。

研究の経過と考察

1 基礎研究

- (1) 学習指導要領（平成10年12月）教育課程審議会答申（平成12年12月）、文部科学省通知（平成13年4月）の資料を基に評価の基本的な考え方をキーワードで整理し、社会科の評価の考え方にシラバスをどのように取り入れていくかを明確にした。
- (2) 先行研究等を分析し、継続的なカリキュラム・マネジメントとシラバスとの関連やその必要性を明確にした。
- (3) 目標に準拠した評価を行うに当たって、シラバスに必要とされる視点（表1）を明確にした。

表1 シラバス作成の視点

- 1 学習のねらいが明確になっていること。
- 2 生徒がどのような資質・能力を身に付けることになるかが明記されていること。
- 3 学習のねらいが達成できたかを測定するための評価方法・評価手段が明記されていること。

2 調査研究

都内公立中学校2年生を対象に、社会科学学習に対する学習意欲や学習習慣の実態及び評価・評定に関する意識調査を行った。その結果から、生徒の社会的事象に対する関心を高め、主体的に学習する態度を身に付けさせることが重要であるということが分かった。そしてその手だてとして、「シラバス」活用の工夫と生徒の自己評価を取り入れた個人内評価の工夫を行うこととした。

3 授業研究

- (1) 検証授業（社会科地理的分野のシラバスを作成し、検証授業を行った。）

学習意欲を高めるための「シラバスを活用した」指導の工夫

検証授業は、年間指導計画例の中から地理的分野「日本の姿をとらえよう」（全8時間）を実施した。指導の工夫として、生徒に次の表に示す単元シラバスと自己評価を組み合わせ「アドバンスシート」を活用させた。

「日本の姿をとらえよう」アドバンスシート

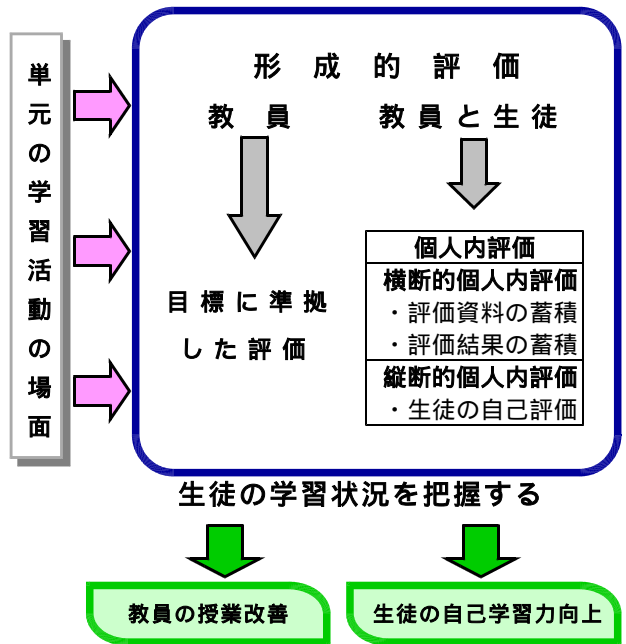
自己評価：学習の到達度に対する自己評価です。自分の学習を振り返って、今後の学習に生かしていきましょう。

		基準評価	十分できた 4	概ねできた 3	あまりできなかった 1						
		学習活動に合わせて生徒が自己評価する				1					
		授業評価：生徒による授業評価です。授業を振り返って				授業評価					
		基準評価	十分あてはまる 4	概ねあてはまる 3	あまりあてはまらない 1	評価方法について説明し、 評価項目に明確に対応 していったか 学習活動の指示は分かり やすいかが分かる 工夫があるか					
時間	学習内容	学習の到達度評価項目			自己評価	発展学習	補充学習	授業評価			
	8	技能	4	3				2	1	4	3
	教員が目標に準拠した評価を行い生徒に返却を相互評価する。 後日先生が採点したものを返却します。	略地図をかき、法で日本の位置が分かる程度を相互評価する。 (略地図テスト)	主な島々の大きな位置が分かる程度を相互評価する。 (略地図テスト)	4 3 2 1	半島やリアス式海岸等に着目し、北方領土周辺の島々を描きこみよう。	九州、本州、北海道も正確に描いてみよう。	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	
観点別評価		関心・意欲 A B C	思考・判断 A B C	技能・表現 A B C	知識・理解 A B C	生徒の授業評価を次の授業改善の資料として生かす					
						評定	5	4	3	2	1

図1 学習評価の流れ

個人内評価の工夫

図1は本研究における学習評価の流れを示している。個人内評価は生徒による自己評価と、教員が目標に準拠した評価によって蓄積した評価結果や評価資料を分析することで行う。教員は、この学習評価を行うことで生徒の学習状況の把握や指導の改善、個に応じた指導にこの効果を生かすことができる。生徒は学習活動を通して自分の学びを振り返り、次の学習への目標を見付けたり、分かったという達成感を味わったりする。その結果、生徒の学習意欲が高まる。



(2) 検証授業分析と考察

縦断的個人内評価

教員が単元学習前後の生徒の学びを比較するために、生徒に自己評価を行わせる。自己評価を行う上でシラバスを活用する。シラバスは年間を通して作成するが、本研究では単元シラバスを用いるので、学習内容の到達度の自己評価シートとして作成し、学習意欲に関する自己評価と併用して活用した。

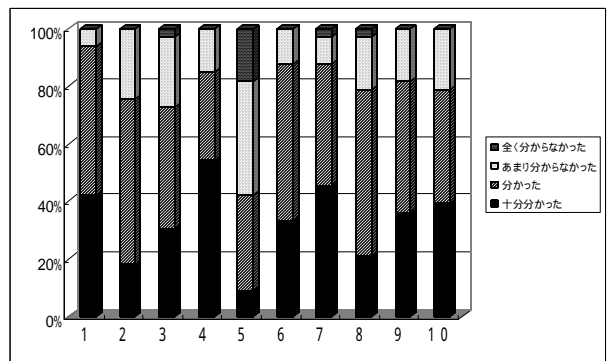
事後アンケート集計、分析

「生徒の主体的学習を支援するシラバス」「アドバンスシート」に関する有用性を検証するために、事後アンケートを集計し分析した結果から、生徒のシラバスには次の3点の効果が期待されることが明らかになった。

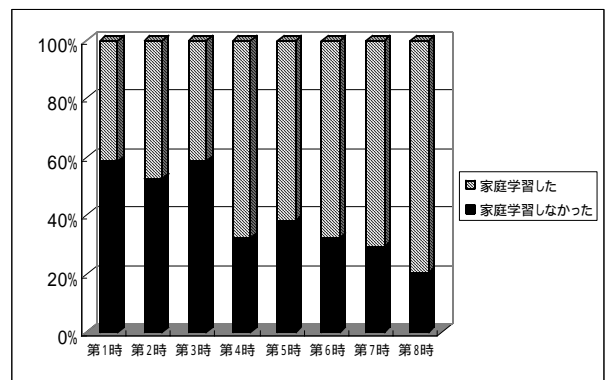
- ア 学習の目的・意義や学習目標、学習の相互関連等、見通しをもった学習ができ学習の振り返りを効果的に行うことができる。
- イ 生徒の主体的な学習態度の育成や家庭学習の促進が期待できる。
- ウ 学習意欲の向上が期待できる。

グラフ1から、「生徒の主体的学習を支援するシラバス」と「アドバンスシート」は学習活動や自分の課題を把握し次の学習へ生かすことができるという点で、生徒が有用性を感じているということが分かる。

グラフ1 「シラバス」「アドバンスシート」



グラフ2 家庭学習の実施状況



学習の振り返りカードの評価項目の数値による評価

「意欲的に学習に取り組めたか」という評価項目を設定することで、学習意欲の高まりを見ることが出来る。また、学習内容や学習形態に応じて、一単位時間の学習意欲を把握することで、指導の工夫・改善に役立つ情報として利用することができる。

学習の振り返りカードの文章表現

グラフ4は、学習の振り返りで行った関心・意欲に関連する生徒の感想の文末表現に着目して分類し(表4)、分類項目ごとの人数をグラフ化したものである。「難しかった」「分からなかった」のEグループの記述が、少しずつ減っていることが分かる。一方、単元全体を通しての変化を分析すると、AグループやBグループの記述「楽しかった」「分かった」という意欲の向上を表す記述が増えている。

グラフ3

「意欲的に学習に取り組めたか」

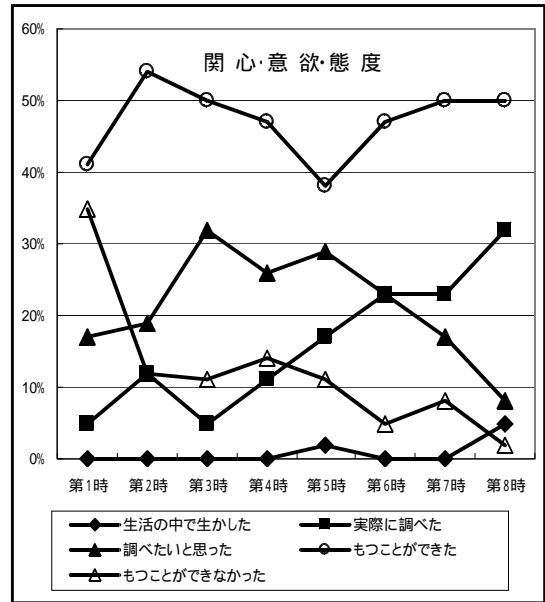
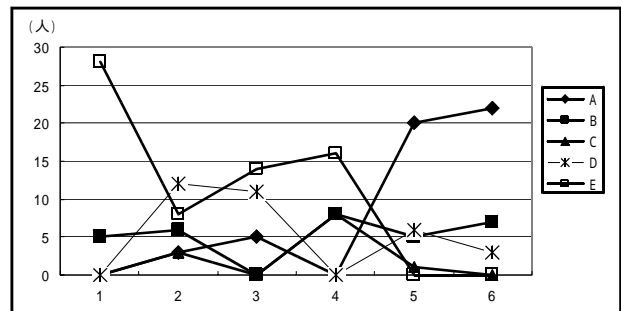


表4 学習の振り返り分類表

グループ	表 現
A	楽しかった おもしろかった 等
B	分かった できた 集中してできた 等
C	やり直そう(復習)という気になった 予習をした等
D	考えたい 調べたい もう少し勉強したい 等
E	難しかった 分からなかった できなかった 等

グラフ4 学習振り返りカード



(3) 横断的個人内評価

観点別に能力や資質についての評価資料を蓄積したり、ワークシートや生徒の作品の観点別の評価資料を蓄積し活用したりすることで、個に応じた指導やその改善に生かす情報を得ることができる。

研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 生徒は「シラバス」で学習への見通しをもつことができた。
- (2) 教員は「シラバス」と個人内評価を活用することで、生徒一人一人の学習状況を把握することができ指導の改善の視点をもつことができた。
- (3) 「シラバス」と「アドバンスシート」「学習の振り返りカード」は、生徒の学習意欲の喚起に有効であることが分かった。

2 今後の課題

教員の授業改善に生かすためには、カリキュラム・マネジメントによって生徒の主体的な学習を支援するシラバスを継続的に作成・活用・改善していくことが必要である。また、シラバスを学校において行われる評価の枠組みに組織的に取り入れるようにすることが、今後の課題である。